

資料編

資料 1 計画策定の経緯

平成 24 年度及び平成 25 年度における計画策定の経緯を以下に示す。

年度	月	委員会での検討	関連事項
平成 24 年度	4		
	5		
	6		
	7	第 1 回検討委員会 第 2 回検討委員会(恵那峡現地視察)	
	8	第 3 回検討委員会	
	9		
	10	第 4 回検討委員会	
	11		
	12	第 5 回検討委員会	
	1	第 6 回検討委員会	
	2		
	3	第 7 回検討委員会	
平成 25 年度	4		・ 恵那峡桜茶会
	5		
	6		
	7	第 1 回活性化委員会	
	8	第 2 回活性化委員会	・ 来訪者アンケート調査
	9	第 3 回活性化委員会	
	10	第 4 回活性化委員会	
	11		・ 恵那峡もみじ茶会 ・ 周遊歩行者数調査
	12	第 5 回活性化委員会	・ 冬の恵那峡行こまいかキャンペーン（～ 3 月）
	1		
	2	第 6 回活性化委員会	
	3		

注)「検討委員会」：恵那峡再整備構想策定検討委員会、「活性化委員会」：恵那峡活性化委員会

資料 2 恵那峡再整備構想策定検討委員会

再整備をするにあたり、平成 24 年 7 月に 18 人からなる委員で構成した『恵那峡再整備構想策定検討委員会』を立ち上げ、委員各位に対しそれぞれの立場からの意見や情報を聴取しつつ、検討を行った。

1) 構成委員

氏 名	所 属 ・ 役 職
原 正 雄	恵那市観光協会恵那峡支部 支部長
市 川 捷 敬	恵那峡観光協会副会長
大 嶋 晋 一	社団法人恵那市観光協会 専務理事
小 澤 隆 徳	大井町まちづくり協議会 会長
山 本 力	中山道岡瀬沢保存会 代表
丸 山 朝 夫	明知鉄道株式会社 専務取締役
鹿 野 正 春	恵那商工会議所 観光部会長
市 川 直 樹	社団法人恵那青年会議所 委員
藤 下 茂 夫	恵那市観光協会恵那峡支部 副支部長
可 知 孝 幸	恵那市観光協会恵那峡支部 副支部長
前 田 修	東鉄商事株式会社 取締役事業部長兼恵那峡遊覧船支配人
長 野 敬 子	社団法人岐阜県観光連盟飛騨・美濃観光名古屋センター 所長
小 椋 日南恵	恵那市まちなか市実行委員会委員長、中山道大井宿しぶろく代表
安 藤 洋 子	恵那市まちづくり市民協会 副会長
金 澤 正 雄	恵那観光大使
斎 藤 詠 子	株式会社 J T B 中部 多治見支店長
久保田 恭弘	学識経験者 有限会社久保田デザイン 代表取締役
安 江 建 樹	恵那市経済部 経済部長

２）開催経過

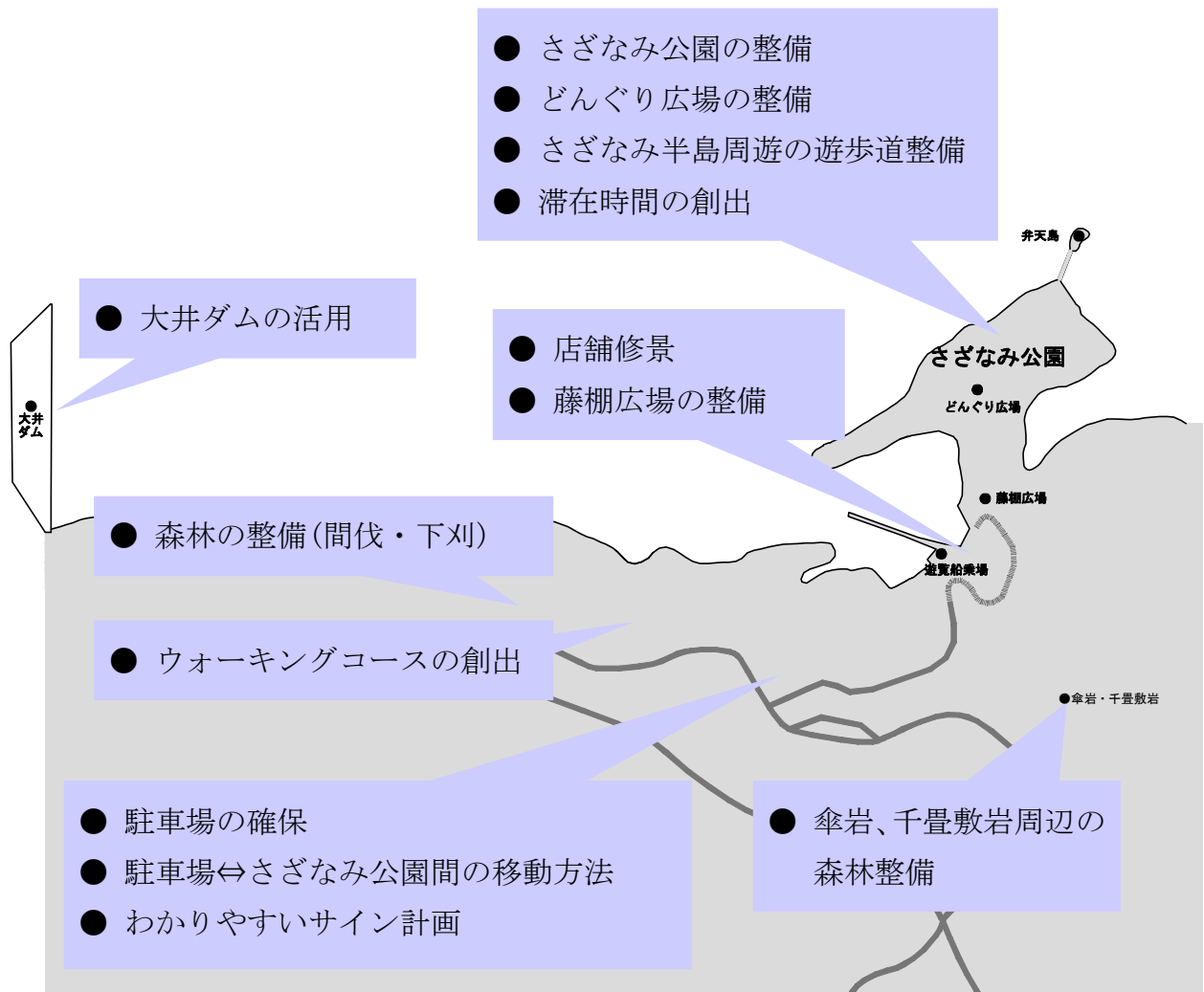
（１）開催経過

委員会	開催日	内 容	開催場所
第１回	平成 24 年 7 月 4 日（水）	・ 委嘱書の交付 ・ 策定スケジュールの確認、恵那峡の概要説明、恵那峡再整備の課題の検討	恵那市役所 北会議棟大会議室
第２回	平成 24 年 7 月 17 日（火）	・ 恵那峡見学 ・ 現状から見た恵那峡再整備の検討課題	恵那市役所 北会議棟大会議室
第３回	平成 24 年 8 月 29 日（水）	・ 再整備プランの提案 ・ 意見交換	恵那市役所 北会議棟大会議室
第４回	平成 24 年 10 月 4 日（木）	・ 再整備コンセプトの検討 ・ 再整備プランの提案 ・ 意見交換	恵那市役所 北会議棟大会議室
第５回	平成 24 年 12 月 4 日（火）	・ 再整備コンセプトの検討 ・ 駐車場整備の検討 ・ 意見交換	恵那市役所 北会議棟大会議室
第６回	平成 25 年 1 月 17 日（木）	・ 再整備コンセプトの確認 ・ 駐車場整備の検討 ・ 全体計画のまとめ	恵那文化センター 2 階多目的集会室
第７回	平成 25 年 3 月 19 日（火）	・ 恵那峡再整備構想報告書の確認	恵那文化センター 2 階多目的集会室

3) ワークショップ検討結果

計7回のワークショップを開催した結果、再整備における重点課題は以下の通りとなった。

〈恵那峡の重点課題〉



検討会での各委員からの意見（抜粋）

■ 藤棚広場周辺、既存店舗について

委員の声	対応策
■ 藤棚を整備し生かして欲しい。 ■ 藤棚の整備は後の管理を考えると慎重に検討する必要がある。 ■ 現在、藤は枯れかかっている。 ■ 藤棚広場は恵那峡の中心である。 ■ 再整備の最大ポイントは店舗である。 ■ 今ある店舗は建物も一新し、テナント形式で協力して運営する位の大改革が必要。 ■ 売店が一番の問題である。せめて表面だけでも綺麗にすべきである。 ■ 現代風の店作りが必要、また商品内容も検討するべきである。 ■ 店舗を含め、大掛かりな開発が必要である。 ■ 藤棚広場の店舗は撤去して、(新設予定のどんぐり広場内オープンテラスに)店舗を移動してはどうか。 ■ ウッドデッキに関して、イメージ「大正時代風のイメージなど」を統一した全体の雰囲気壊さないようなものを作っていただきたい。	□ 藤棚広場から恵那峡の湖面が一望できるようにする。 □ 藤棚広場は恵那峡の中心ともいえるので、観光客にくつろいで頂けるスペース、また恵那峡の自然をゆつくり眺めるよう、ウッドデッキで整備しリゾート感を演出する工夫を行う。 □ 藤棚広場は現在手入れがなされていない状態なので、藤の根に水が行き渡るような構造に改修・整備を行い、きれいに整える。また藤の季節も楽しめるようにする。 □ 店舗修景に関しては、久保田委員に修景イメージを作成して頂き、今後、店舗経営者に検討して頂くこととする。 □ 張り出しウッドデッキにLEDフットライトによりライトアップを行い、夜の恵那峡を楽しめるようにする。

■ さざなみ公園、どんぐり広場について

委員の声	対応策
■ さざなみ公園をぐるりと周れる遊歩道を作るとよい。 ■ さざなみ半島には周遊コースはなく、どこも行き止まりである。 ■ 案内がない。 ■ 桜の手入れが悪い。 ■ 恵那峡にモミジを植栽してはどうか。 ■ どんぐりの木を切るのは反対である。 ■ どんぐり広場の現状を見て、一体どれだけの利用があるのかを考える と、今ある自然を活かすよりも、もって行ってみたいと思うような利用が出来ると良い。 ■ メンテナンスや安全性を考慮すると、遊具は必要ない。 ■ 足湯を造るなら、空家対策も兼ねて一等地に造るべきである。 ■ 雨宿りや日陰が出来るところが欲しい。 ■ 休憩する東屋など設置して欲しい。 ■ 遊覧船以外に時間を費やす場所がない。 ■ 芝生はメンテナンスが大変であり必要ない。土のままの状態でよい。 ■ 自然を活かした整備とすべきである。 ■ 弁天島をもっと大事にしたい。弁天様をもっとPRすべきである。 ■ 遊具等の後のメンテナンスが大変かもしれないが、幅広い年代で考えると多少は必要かもしれない。 ■ 歩道を明確に位置づけることが必要である。(恵那峡2号線)カラー舗装等を施し明確にして欲しい。 ■ さざなみ公園周遊コースの歩道は、ウォーキングコースという位置づけでなく、「公園を一周できる」というイメージをきちんと持つてもらえるような一定の広さ、同じ道幅で整備して頂きたい。	□ さざなみ半島周遊歩道を新設して周遊出来るようにする。 □ 公園内の案内などを設置する。 □ 既存の桜は伸びすぎているので剪定し整備する。またモミジを新たに植栽し、紅葉シーズンをさらに演出しアピールする。 □ どんぐり広場に関して、どんぐりの木は、可能な限り残す方向とする。 □ 新たに時間を費やす場として芝生広場を計画する。芝生は必要ないという意見もあるが、芝生広場は利用者のニーズも高く多様な利用が可能であり、若い世代、特に家族連れには“転んでも安全な遊びの場”として人気がある。今の恵那峡は高齢者向けの観光地であるという声もあり、観光客層拡大につながると思われる。 また芝生の利点として、じかに座ったり寝転んだりできることが上げられる。都会や遠方からの観光客が敷物など持参で遊びに来る事は考えにくい。ウォーキング目的だと、敷物などの荷物は移動の負担となる為、尚更持参はあり得ない。しかし、芝生広場があれば、その場で休憩できるし、そこで飲食したり、のんびり出来るので、滞在時間の延長につながる要素として有効であると思われる。 □ 既存の展望台は、老朽化しており安全対策上取り壊す必要がある。そこで新たに見晴らしテラスの設置し、広場にはシェルターやオーブンテラスなど計画し、藤棚広場とは違う視点の展望スポットを設け、ゆっくりと過ごす場を創出し、滞在時間の延長につなげる。 □ カヤック、カヌーなど水上レジャーを楽しんだりできる施設の計画、水辺の清掃、修景整備を行い親水空間を設ける。同様に親水性、景観の向上、水質浄化の目的を兼ねて噴水を計画する。 □ シンボルツリーの植樹やライトアップを行い、夜の恵那峡も楽しむようにし、長時間滞在出来るようにする。 □ 現在弁天島は殺風景であるので、植栽を施し、弁天島へと渡る橋には蒼光石を用いてパワースポットの雰囲気演出し、恵那峡の見所の一つとなるような工夫をする。

■ 散策道の整備

委員の声	対応策
■ 湖面を見ながらのウォーキングコースがあると良い。 ■ 湖面沿いにダムへ行ける散策道があるとよい。 ■ ウォーキングコースの案内がない。 ■ 湖面からダムへとつながるコースがあると良い。 ■ ダムへと続くコースは植生が豊かである所であるので、樹木の名称を標記するなどして生かしてはどうか。 ■ 楽しんで歩いてもらえるようなウォーキングコースの整備。 ■ ダム堰堤へ続く道は非常に急で、日陰なので落ち葉などで滑りやすく危険であるので、滑らないように是非整備して欲しい。	□ 湖面沿いにダムへと繋がる散策道は構造的に不可能であるので、湖面より県道へ上がっていきける散策道を設け、さざなみ公園、遊覧船、大井ダムへと続く動線のウォーキングコースを作る。 □ LEDフットライトを散策道沿いに設置する事で、足元の安全を図りつつ、夜の恵那峡も楽しめるようにする。同時にライトアップの効果で、公園一体の夜景が恵那峡大橋から見ても楽しめるようになる。 □ まるで湖面の上を歩いているような張り出し散策道を作り、ゆっくりと歩きながら水の景観が楽しめるようにする。 □ ぱっと見て「歩いてみたいな」と思うよう、既存の敷石散策道を整備し、より湖面に近づける空間を設け、来園者をさざなみ公園へと誘導する。

■ 森林整備・周辺整備について

委員の声	対応策
■ 湖面が見えない。 ■ 手入れが行き届いていない。 ■ あまり手を加えず、自然を大切にすることが大事である。 ■ グリーンロードからも湖面が見えるとよい。 ■ 整備計画は後の手入れのことを考えて計画する必要がある。 ■ 自然を壊さない工夫が必要である。 ■ お年寄りから小さな子供まで楽しんだり歩いたりできるような「安全・安心」を考えた森林整備が大切である。 ■ 今後のメンテナンスとして、市民による森林管理、清掃を考えるとよい。 ■ 稲荷茶屋横の展望台は、シアター恵那駐車場から歩いて来ると、最初の展望が開ける箇所なので、そこを路面と同じ高さにして整備する計画を入れて頂きたい。そしてそこを下に降りる散策道の降り口として利用してはどうだろうか。	□ 湖面が見えるよう最小限にとどめた間伐、下刈などを行い、未来に継承できる森林整備を行う。 □ 自然を出来る限り残す。 □ 安全対策、今後の管理計画を踏まえた整備を行う。 □ 稲荷茶屋横の展望台を、路面と同じ高さにして湖面が一望できるように整備する。

■ ダムサイト・観光資源（傘岩・千畳敷岩）の活用について

委員の声	対応策
■ 大井ダムは『日本初のダム式発電所』であるが故、ぜひPRして活用すべきである。 ■ ダムから望む景色がとても素晴らしい。 ■ ダムへのアクセスエリアが必要である。 ■ 傘岩、千畳敷岩からも恵那峡の景観が望めるように整備したほうがよい。 ■ 恵那峡には多くの石仏が残っているのでこれを生かしていったらどうか。	□ わかりやすい案内を設置し誘導する。 □ ダム堰堤まで導くようなウォーキングコースを整備し案内する。 □ 傘岩・千畳敷岩周辺の森林を整備し、モミジの植栽を行い、観光客の足が向くように案内を設ける。

■ 駐車場について

委員の声	対応策
■ とにかく駐車場が足りない。 ■ 保安林が解除されたところを駐車場にしてはどうか。 ■ 現在の駐車場は湯快リゾートの宿泊客に専用されている。 ■ 来園者に人気の季節の花々の開花時期など春と秋時期を中心に駐車場不足が発生し、来園者の安全確保及び利便性に問題があるとともに、公園周辺の国道や県道の一般通行にも支障が出ている。ピーク時には駐車出来ずに帰られる観光客が多数いる。 ■ 駐車台数は最低 200 台は必要。 ■ 体の不自由な方や高齢者に配慮した気配りのある駐車場がない。 ■ もっと藤棚広場の近いところに駐車場が欲しいという要望が観光客から多数ある。地元で商売をしている立場としても、店舗付近に駐車場を望む。 ■ 既存の駐車場を立体駐車場にしてはどうか。 ■ 自然公園の中に立体駐車場を造ると、せっかくの景観が台なしである。 ■ シアター恵那の駐車場を利用したらどうか。	□ 現駐車場は区画が非常に狭く使いづらいため、新たに整備し、湯快リゾート、バス駐車場とのはっきりとした線引きを行うようにする。 □ 委員が駐車場候補地に挙げる区画の周囲が、今現在保安林指定地であるので、進入路を整備する事が出来ず、駐車場を新設する事は不可能である。 □ 新たに駐車場を新設するのではなく、既存のシアター恵那の駐車場を利用し不足分をカバーする。 □ シアター恵那から遊覧船乗り場までは距離があるので、歩いても苦にならないような、また距離を感じさせないような沿道の演出を工夫する。 □ 藤棚広場前の空家箇所に駐車場を設ける計画は、駐車場まで降りていく道路が、歩車道分離がなされておらず大変危険である上、道幅も狭く、車両のすれ違い通行が困難な状況である。安全を確保するためには、道路用地の確保と大規模な工事が絶対的条件であり、予定増加駐車台数を考えると、費用のわりにあまり効果が期待できるものではない。そこで空家対策を兼ね、現駐車場より藤棚広場へ続く道から、湖の可視性を高め景観を向上するために、駐車場検討地は緑地に整備するものとする。

(駐車場について) ■ 駐車場の整備について、シアター恵那の300台ぐらいの駐車場を観光用の駐車場として開放してもらおうことをきちっと明確に位置づけしたほうがよいと思う。	□ シアター恵那の駐車場を利用すると、藤棚広場までは1km弱の距離がある。また道のりも平坦ではなく、帰りは殆ど上り坂である。すると、歩くことが目的ではない遊覧船や観光目的の人々や、小さな子供が一緒の家族連れには敬遠され、せっかく来ても、藤棚広場やさざなみ公園まで足を向ける気にならないのではと考えられる。そこで、シアター恵那と藤棚広場を結び、また恵那峡一体を周遊するようなシャトルバスの運行を検討し、交通の利便性向上と渋滞の発生を抑制する仕組み必要がある。
--	--

■ ソフト面を活かした観光誘客の手法について	委員の声
	対応策
■ 食べたいと思えるような食べ物が無い。 ■ 地元の人も集えるようなカフェや食事場所があるとよい。 ■ 五平もちを恵那までわざわざ食べに来る人がいるので、五平もちをもっと売り出してはどうか。 ■ 景観整備によって観光客が増えても、お金を落としてもらわないと何もならない。 ■ 食べながら歩けるような店が欲しい。 ■ 魅力的な土産がない。 ■ 水上イルミネーションなど、集客ができるイベントがあるとよい。 ■ ライトアップは人気があり、観光客の年齢層の幅が広がる。 ■ 恵那峡だけでなく中山道と抱きあわせて魅力づくりをしてはどうか。 ■ 健康を考えた恵那峡として、健康をテーマにしたイベントやレストランをプロデュースしてはどうか。 ■ 大井ダムは大正時代にゆかりがあるので、魅力づくりとして「大正ロマン」の雰囲気町の並みにしてはどうか。 ■ コンセプトを決め、まずは魅力のあるものを作るべきである。その基本を大事にしつつ恵那峡を育てていくことで、さらに恵那峡は魅力あるところに成長するだろう。	□ 恵那峡でしか食べられない新たな名物となる飲食物や土産物を開発する。 □ 散策道のLEDフラットライトによるライトアップ、またシンボルツリーをライトアップし、夜の恵那峡も演出する。 □ 地元産朝市など定期的にイベントを行う。 □ ラッピングバスにて広告するなどPR活動を行なう。 □ 恵那駅から恵那峡への直通バスを運行するなどし、交通面での利便性を向上させる。

(ソフト面を活かした観光客誘導の手法について)

- 桃介と貞奴を生かしたブランド作りが必要である。大正のイメージ・自然のイメージ・清流のイメージを演出することが大切である。恵那峡の財産は桃介と貞奴が作った大正時代の水力発電ダムであり、その大正ロマンという時代がブランドであると思う。徹底的に大正ロマンを活かし、そこから『自然』というコンセプトを生かした、四季を感じるような料理やサービス、雰囲気を展開し、徹底的なブランド作りを行うと良いのではないだろうか。そうしてどんどん広げていき、恵那峡を作ってあげれば良いのではないだろうか。
- 人をどういう風に感動させるか、そして自然とどう対峙するのかという事を考えて町並みや雰囲気を形成すれば、一年を通して観光客が来るようになると思う。一年を通して楽しめるような施設をどうやって作っていくのか、コンセプトを決めてきちんと作れば、お客様にとってもっとわかりやすくなると思う。そして未来にどう残していくかということが大事である。
- 自然のイメージを生かしたイベントを計画し、この整備計画を段階的に発表し、マスコミにも取り上げてもらうようにすると良い。やはりお客様が来たいと思うのは花であるので、恵那峡の桜や紅葉を盛り上げる仕掛けが大事である。
- 今、岩村町の人気が高く、地域の人々の盛り上げ方が凄い。恵那峡にもそういうシステムがあると良い。また、気候に体験できる、例えば自分で五平もちを作って食べられるような施設などがあると良い。
- 現在の、恵那市観光協会恵那峡支部だけの小さな組織では、恵那峡を盛り上げていくことが非常に難しい状況である。新たに大きな枠組みの中で恵那峡を盛り上げていく組織が必要な時期に來ていると思う。

どの委員にも共通したのは、恵那峡は「自然公園」であるという意識が非常に強く、「都市公園」のような遊具の設置や過度な演出には否定的な意見であった。

平成2年2月にまとめられた『恵那峡再整備基本構想報告書』に恵那峡の問題点はこう示されている。

- 遊覧船しかない
- 自然のPR不足
- 親水空間がない
- 公園の魅力不足
- ダムの意味とダムサイトの未利用
- 他の観光施設との連担不足
- 湖の見える場がない
- 土産品などの魅力の欠如
- 交通対策の不備（歩車分離）
- 歴史、文化の認識不足
- デザインの統一
- 景観対策の不足
- 市の方針が明確でない

計画から23年経過した今日でも、当時と同じ問題を抱えたままの状態であることが今回のワークショップで明確になった。今回のワークショップで検討された対応策も平成2年のそれと内容はほとんど変わらないものである。

前回平成2年の『恵那峡再整備構想基本報告書』、そして今回のワークショップでの結果を、今ある自然資源と歴史を尊重し、未来に継承して行く方法で恵那峡の再整備につなげていく事が求められている。

資料 3 恵那峡活性化委員会

恵那峡で実施するソフト事業については、恵那峡地区の主要な事業者からなる委員で構成した『恵那峡活性化委員会』を立ち上げ、委員各位それぞれの立場からの意見や情報を聴取しつつ、検討を行った。

1) 構成委員

	氏 名	所 属 ・ 役 職
委 員	青 地 齊	恵那峡グランドホテル 代表取締役社長
	藤 田 洋 司	かんぼの宿恵那 総支配人
	高 村 秀 行	湯快リゾート株式会社 恵那峡国際ホテル 東海エリアマネージャー
	渡 邊 好 作	(株)銀の森コーポレーション 専務取締役
	鹿 野 正 春	木曽路物産株式会社 代表取締役社長
	原 加 代 子	(株)恵那寿や 取締役副社長
	鎌 田 真 悟	(株)恵那川上屋 代表取締役
	畠 中 美千代	民宿 藤太郎
	大 蔵 磨	民宿 おおくら
	鷲 見 富 朗	恵那峡 山菜園 支配人
	藤 下 茂 夫	湖楽園
	可 知 孝 幸	恵那峡 栄屋
	大 嶋 晋 一	一般社団法人 恵那市観光協会 専務理事
	前 田 修	東鉄商事株式会社 取締役事業部長兼恵那峡遊覧船支配人
	原 政 則	岐阜県地方競馬組合 シアター恵那 所長
関 連 団 体	岡 本 祥 子	恵那市茶道連盟 会長
	伊 藤 来	名門カヤック大学 代表

2) 開催経過

(1) 開催経過

委員会	開催日	内 容	開催場所
第1回	平成25年7月29日(月)	・「活性化委員会」の目的と役割の説明 ・恵那峡再整備基本計画報告書の概要説明 ・計画の「要素」と「対象者」について	恵那市役所 第2委員会室
第2回	平成25年8月29日(木)	・前回のおさらい ・来訪者アンケート結果 ・ソフト事業に関する意見収集	恵那市役所 会議棟中会議室
第3回	平成25年9月26日(木)	・前回のおさらい ・ソフト事業の検討 ・ハード事業の見直し案の検討	恵那市 防災センター 3階会議室
第4回	平成25年10月30日(水)	・前回のおさらい ・ハード事業・ソフト事業の確認 ・次年度以降の取組体制に関する意見収集	恵那市役所 会議棟中会議室
第5回	平成25年12月19日(木)	・前回のおさらい ・ハード事業・ソフト事業の確認 ・次年度以降の取組体制 ・今年度のとりまとめに向けて	恵那市役所 会議棟中会議室
第6回	平成26年2月27日(木)	・前回のおさらい ・計画書の確認 ・今後の予定	恵那市役所 北会議棟大会議室

(2) 会議録

■第1回恵那峡活性化委員会議事録

項目	内 容
日時	平成25年7月29日（月）19時～21時
場所	恵那市役所 4階第2委員会室
出席者	青地斉、藤田洋司、高村秀行(代)、渡邊好作、鹿野正春、原加代子(代)、鎌田真悟、畠中美千代、鷺見富朗(代)、藤下茂夫、可知孝幸、大嶋晋一、前田修、原政則
議事要旨	■「活性化委員会」の目的と役割 ・委員会の目的、役割及び全体プログラムについては了承された。 ■恵那峡再整備基本計画報告書の概要 ・恵那峡再整備基本計画報告書は、恵那峡の再整備の基本となる計画である。ただし、本委員会検討するソフト施策の内容によっては変更していく。 ・恵那峡の整備では、日本一のものなどのウリ、目玉が必要と思われる。 ・計画の整備内容の必要、不必要という議論ではなく、各委員がこの方法で人が呼びたいという意見を聞き出すべきである。したがって、本日は各委員から意見を聞くこととする。 ■各委員の意見の概要 ・ターゲットの設定、事業スキームの作成などが必要である。半人工物は景観が悪くなる。 ・枝からの滴で花が傷むため、樹木と草花を同じ場所で育てることは難しい。 ・駅からのシャトルバス、特急列車の停車増強などのアクセス面を強化できれば良い。物販施設があると集客効果が高まると思う。 ・集客するためにはウリが必要である。 ・恵那市民を集客するならばこの計画で良い。他都市から集客するならば、地元の人の協力が必要である。 ・以前の整備では管理が不足していた。 ・大井ダムがウリになる。大井ダムまで歩いて回れるようにすることも良い。 ・基本計画は前年度に1年かけて計画を策定した。この計画を無視してほしくない。ソフト面で肉付けしてほしい。 ・日本一のものは、短期間では難しい。広域観光で集客すれば、整備は最小限で良い。 ■来訪者アンケート調査 ・事務局で検討した方法、内容で進める。 ■力を入れて行くべき集客の時期 ・キャパシティーに余裕のある時期（夏・冬）に力をいれると良い。

注）出席者欄の（代）は、代理者が出席したことを表す。（以降、同様）

■第2回恵那峡活性化委員会議事録

項目	内 容
日時	平成 25 年 8 月 29 日（木）15 時～17 時
場所	恵那市役所 会議棟中会議室
出席者	青地斉、藤田洋司、渡邊好作(代)、鹿野正春、原加代子、畠中美千代、大蔵磨、鷺見富朗(代)、藤下茂夫、可知孝幸、大嶋晋一、前田修
議事要旨	■来訪者アンケート結果に対する意見 ・恵那峡の魅力である自然にどうやって磨きをかけるか考える必要がある。 ・恵那峡には自然しかない。自然以外のものもプラスしないといけない。 ・現状の恵那峡の自然は見て美しい自然になっていない。手を加える必要がある。 ・自然を見せるだけでなく、そこで参加できる何かがあると良い ・恵那峡ですばらしい自然を作ってはどうか。作られた自然も良いと思う。 ・四季折々の何かを感じられると良い。恵那峡の水辺の活用が大事になってくる。 ・恵那峡の景観を川の両岸から見ることでできるコースをつくると良い。 ・季節ごとでそれぞれ魅力をつくっていくのが良いと思う。 ・実際にはたくさんの人が訪れている傘岩の整備も考えてほしい。 ■ソフト事業に関する意見 ・恵那峡でのカヤック・ボート体験には賛成である。坂下の柵の湖でカヤック教室を行っている人から恵那峡でもやりたいという話は出ている。 ・事業を5つくらいに絞ると良い。例えば、季節毎に市民をまきこんでやるのも良い。 ・冬のイベントは難しいが、かつて行っていた温泉とバードウォッチングのイベントは見直せば再開出来ると思う。 ・藤棚の辺りを整備できれば夕涼みガーデンやイベント飾りなど夜のイベントも行えるようになると思う。また、さざなみ公園にステージを作って音楽のイベントも良い。 ・歩きたい人はたくさんいるので、きちんとしたコースをつくるなども考えられる。 ・春に行ったお茶会は好評だったが、より多くの店舗が協力するともっと良いものになる。 ・かつて花火大会の前後に行っていたカブトムシの虫取り大会が好評だった。 ・秋にはグルメのイベントとして恵那の特産品コーナーがあると良い。冬には、かつてバードウォッチングを行ったが、外部の人のみでなく地元の人もしっかり参加していた。 ・かつてあった釣堀が流行っていた。釣った魚を食べる事が出来れば面白い。 ・恵那峡一周を歩けるようにして、ウォーキングに参加したお客に大掃除に参加してもらうイベントも良いと思う。恵那の人に対して恵那峡を再認識してもらう必要がある。 ・民間の参加で活性化を促す必要がある。恵那峡にお菓子処が多い事を踏まえる必要がある。 ・茶道連盟では恵那峡で茶会を開きたいという考えを持っている。茶道連盟の会長に次回の委員会で話をしてもらいたいと考えている。 ・大井ダムの見学ツアーは安定した集客が見込めそうであり、効果があるように思う。 ・イベントでホテルの板前が参加するとか、お風呂を利用してもらうなど協力出来ると思う。 ■次回について ・次回の活性化委員会は9月26日（木）15時からを予定する。 ・茶道連盟の会長である岡本さんの出席を依頼する。 ・次回までに、委員の各立場で、人的、モノ・ノウハウ、資金面など、ソフト事業の実施に対して協力できることを考えてきていただく。

■第3回恵那峡活性化委員会議事録

項目	内 容
日時	平成 25 年 9 月 26 日（木）15 時～17 時
場所	恵那市消防防災センター 3 階会議室
出席者	藤田洋司、鹿野正春、鎌田真悟(代)、大蔵磨、藤下茂夫、可知孝幸、大嶋晋一、前田修、伊藤来
議事要旨	■ソフト事業の検討 《恵那峡カヤック・ボート体験》 ・伊藤氏の意向は、恵那峡でのカヤック体験は講師が同行のもと 1 時間程度で恵那峡大橋まで行きたいと考えている。 ・カヤック体験はイベント的に短期間ではなく、長期間行ってほしい。また、カヤック体験のインストラクターの養成が必要だと思う。 ・カヤックの安全性については、遊覧船などとの話し合いを行う必要がある。 《恵那峡クリーン・ウォーク》 ・地元の人々も日ごろから清掃を行っており、清掃活動などへの協力が期待できる。 ・クリーン・ウォーク等で人材の提供ができる。 ・恵那峡の周回コースにおいては、看板等を設置し安心して周れるコースが必要だと思う。 《恵那峡大茶会》 ・お茶会は、菓子屋と連携したお菓子まつりや恵那市の特産品やグルメを紹介する物産市を合わせて開催してほしい。また、お茶を実際に体験したり、学べる場所が必要だと思う。 《恵那の特産市[えなマルシェ]》 ・食のイベントでは商品提供の協力ができる。様々な店舗が商品を提供する事が必要である。 ・食のイベントの際には料理人の提供に協力できる。 《恵那峡バードウォッチング（温泉めぐり）》 ・温泉めぐりは各ホテルで入湯税の考え方が異なるという問題がある。 ・バードウォッチングはPRを強化していきたい。 《その他》 ・藤棚をライトアップし“藤まつり”を行うと良いと思う。 ・ソフト事業のイベントの際には大浴場を提供できる。 ・ソフト事業について、委員の協力のもとで来年度の春から実施することで賛同を得た。 ■ハード事業の見直し案の検討 ・雨を一時的にしのげ、できれば雨の日にお茶会ができるよう場所を事務局で検討する。 ・既存の東屋が立地している箇所など、さざなみ公園の北東部でのトイレの設置について、事務局で検討する。 ・ボートハウスより南側の周回園路は、車が通行できる幅員を確保した場合、山側を大きく削ったり、湖面に張り出すことも考えられる。いずれも費用が多大となるため、事務局で検討する。 ■次回について ・次回の活性化委員会は 10 月 30 日（水）15 時からを予定する。 ・ソフト事業を進めるため、個別に具体的な話を聞いていきたい。

■第4回恵那峡活性化委員会議事録

項目	内 容
日時	平成 25 年 10 月 30 日（水）15 時～17 時
場所	恵那市役所 会議棟中会議室
出席者	藤田洋司、高村秀行(代)、原加代子、鎌田真悟(代)、大蔵磨、藤下茂夫、可知孝幸、大嶋晋一、前田修、原政則、岡本祥子、伊藤来
議事要旨	■ハード事業・ソフト事業の確認 ・シアター恵那の駐車場はイベント時の臨時駐車場として借用可能と表記してほしい。 ・提案場所にトイレが出来るのであれば観光客も助かると思う。 ・カヤックの保管場所はボートハウスの北側を整備すれば確保できる。 ・カヤックの乗船場のスロープは現在のものでは短いため、スロープを長くする計画である。 ・お茶会を行うためには水道と火が使える場所とお茶をたてる場所が必要となる。 ・お茶会には遠方から来る人などに対して食事の準備も必要となってくる。食事付きのチケットのようなものがあると良い。 ・休憩所は雨の日のお茶会の会場として、最低 25 席分のスペースは確保してほしい。 ・休憩所が綺麗な景色を眺める妨げにならないようにしてほしい。 ・かんぼの宿恵那の下の湖岸の遊歩道整備では、桜を綺麗に咲かせるためにも遊歩道沿いの少し奥の中の方まで刈込む予定である。 ■次年度以降の取組体制に関する意見収集 ・イベント等において、人的や施設の利用等の支援や協力は可能であるが、しっかりした組織をつくり、そこで主体的に活動したり、組織での会長・副会長となると、普段の仕事や他の取組もあるため難しい。 ・恵那峡にある観光に関わる企業がこの組織体制についての位置づけを理解する必要がある。特に主要な企業では、恒常的に恵那峡をどうしていくかを話していく必要がある。 ・イベントを実施する際に課題があるのであれば、その課題を詰めていく会でも良いと思う。 ・観光協会の恵那峡支部を中心にして実行委員会をつくるのが良いと思う。実行委員会そのものは必要だと思う。 ・組織体制について受動態ではなく能動態にならないといけない。大変なことは分かるが、恵那峡のことは恵那峡の人に頑張ってもらいたい。 ・組織体制について、地域の人で組織をつくりイベント等の企画や実行を行うのが理想だが、すぐには難しいため、当面は観光協会や市が案を提案しながら行っていきたい。 ・組織体制について、本来なら整備後に組織体制をつくっていくのだが、それでは遅いと思う。

■第5回恵那峡活性化委員会議事録

項目	内 容
日時	平成 25 年 12 月 19 日（木）15 時～17 時
場所	恵那市役所 会議棟中会議室
出席者	青地斉(代)、高村秀行(代)、渡邊好作(代)、鎌田真悟(代)、畠中美千代(代)、大蔵磨、鷺見富朗(代)、可知孝幸、大嶋晋一、前田修
議事要旨	■ハード事業・ソフト事業の確認 ・ 栄屋前の広場に流しや調理器を備え、お茶会等に利用できる東屋を設置する。東屋のデザインは周囲の景観に調和したものとする。 ・ 県道沿いの桜並木が古くなって危険であり、剪定・伐採や毛虫対策も必要である。要望があれば、市を通じて県へ要望する。 ■次年度以降の取組体制 ・ 来年度からの組織づくりやイベントの実施体制について、提案の内容で良く、協力していきたい。 ・ 春の桜、秋のモミジ等、恵那峡にある自然を生かすため、たくさんの植栽を行うと良い。 ・ 11 月に予定しているえなマルシェについて、10 月に名古屋のオアシス 21 で開催しているイベントと上手く関連付けて、名古屋からの客を引き込むように出来ると良い。 ・ 冬の恵那峡行こまいかキャンペーンのチケットを今後、恵那峡の中でどのように販売するか課題である。今年度の実施を踏まえて、検討をしていきたい。 ・ 恵那峡の整備では計画だけでなく設計時でも議論できる場があると良い。 ・ 周遊コースの車道について、工事車両の通行も考慮して、周遊コースにできる限り車が通れるような幅員を確保してほしい。 ・ 安全にイベント開催するため、ハード整備とソフト事業の場所を分けながら各整備を行っていくと良い。 ・ 会議で挙げられた 1 つ 1 つのイベントを恵那峡のメインイベントとして周知すれば効果も上がると思う。 ■今年度のとりまとめに向けて ・ 今年度の会議を締めくくり、来年度のにぎわい実行委員会につなげていくため、次回の委員会で参加表明書にご署名を頂く。 ・ 次回の委員会の資料は事前配布する。 ・ 計画書について、できれば公表していろいろな人に見てもらって、意見も聞くべきだと思う。どこまで公表できるか庁内でも相談する。

■第6回恵那峡活性化委員会議事録

項目	内 容
日時	平成 26 年 2 月 27 日（木）15 時～16 時 30 分
場所	恵那市役所 北会議棟大会議室
出席者	青地斉、藤田洋司(代)、鹿野正春、鎌田真悟(代)、畠中美千代、大蔵磨、鷺見富朗、藤下茂夫、可知孝幸、大嶋晋一、前田修、岡本祥子、伊藤来
議事要旨	■計画書の確認 ・恵那峡再整備基本計画の内容について確認した。 ■今後の予定 《恵那峡カヤック・ボート体験》 ・遊覧船の通行による波に対しては幅広のカヤックを使えば、転覆の可能性は低いようである。 ・カヤック・ボート体験の料金は、1 時間 2,000～2,500 円で考えている（保険料が高いため、この金額でも比較的安い方とのこと）。基本的に予約制で実施するつもりだが、空きがあれば当日の参加も受け付ける。 ・木曽川のダムの放流による運航制限を確認する必要がある。 ・活性化委員会のメンバー等を対象にカヤックの事前体験会の開催を予定する。 ・恵那峡カヤック・ボート体験、7 月上旬～中旬の土日の実施を予定する。要望が多ければ秋の実施も検討する。 《恵那の物産市[えなマルシェ]》 ・秋は栗きんとんとお茶が良いので、お茶会も合わせて実施できたら良い。 ・今年の 11 月 16 日は、市民茶会の予定があるため、茶道連盟は恵那峡でお茶会を開催することは出来ない。 ・11 月の 1 週目は恵那峡ランドでイベントがあり、その日は、人手を確保することが難しいため外した方が良い。 ・テーマやターゲットをきちんと決めて PR していく必要がある。 ・コンセプトは、“恵那の特産品を恵那峡で売る”である。 ・恵那の物産市[えなマルシェ]は 11 月の 8 日、9 日の 2 日間の開催を予定する。 《その他》 ・恵那峡イルミネーションのようなイベントもできると良い。 ・恵那峡の入口として奉行橋を宣伝してもらいたい。 ・武並のスケート場と温泉の入浴のペアチケットを販売することも考えられる。 ・日帰りの温泉は、温泉だけでは集客は期待できないため、光のページェントなどは良い。点灯式をえなマルシェの時にすることも考えられる。 ・えなマルシェでは、トイレや水道等の設備が必要となる。 ・花火で使っている台船を活用して何かできないか。最大で 50 人は乗れると思う。 ■(仮称)にぎわい実行委員会への参加表明 ・(仮称)にぎわい実行委員会への参加表明書へ署名していただき、委員会を締めくくった。

資料４ 来訪者アンケート調査

１）調査の目的

恵那峡の再整備に向けて、来訪者のニーズを把握するため、過去に恵那峡を訪れた経験のある人を対象としたアンケート調査を実施する。

なお、本調査における「恵那峡」とは、大井ダムとダム湖、溪谷、さざなみ公園の周辺を指し、恵那峡ワンダーランドは含んでいない。

２）調査の概要

アンケート調査の概要は以下の通りである。

（アンケート調査の概要）

項 目	内 容
調査対象	東海、関東、関西、甲信越、北陸の各地方から、５年以内に恵那峡を訪れたことのある人を抽出
回答方法	WEBアンケートへ回答者自身が記入
調査期間	平成 25 年 8 月 9 日（金）～ 8 月 15 日（木）
回 収 数	517 票

【参考】WEBアンケートとは

○特徴

短期間で高い回収率が期待でき、広域を対象として実施することが可能となるほか、誤回答を削減することができる。

○調査概要

調査会社のモニター登録者を対象に電子メールにてアンケートを配信し、パソコンの画面上で回答していただく。なお、回答者には、運営会社より、謝礼としてポイントが付く。

まず、モニター登録者から「恵那峡を訪れたことのある方」を絞り込むためのプレ調査を実施する。プレ調査では、「過去５年以内に恵那峡を訪れたことがあるか（ただし、恵那峡ワンダーランドを除く）」を質問し、対象者を抽出する。

その後、プレ調査により抽出した人に対して、アンケート調査を実施する。

《割合表示の場合の分母》

- ・ 回答の割合表示は、対象となる回収数を分母として算出する。単純集計で、特に断りがない場合は、517 票を分母とする。

3) 調査結果

【属 性】

(1) 来訪者の属性について

- 来訪2回以上（リピーター）が半数以上である。
- 情報源は、口コミ、ガイドブック、インターネット、TVが多い。
- 子ども連れ家族や夫婦が多く、団体の来訪者は少ない。

(2) 来訪の形態等について

- 滞在2時間以内が半数程度である。
- 自家用車利用が多い。
- 馬籠・妻籠、市内和菓子店、恵那峡ワンダーランドに立ち寄る来訪者が多い。

(3) 金額について

- 飲食代、土産代、施設利用料は1千～3千円、もしくは0円が多い。

(4) 恵那峡の魅力について

- 自然が9割、遊覧船・食べ物・温泉が2～3割を占めている。

(5) 魅力向上の施設・取組イメージについて

- 木や花により四季折々の自然が親しめることが恵那峡の魅力である。
- 「自然」「食」「体験」がキーワードである。
- 「夏」に訪れたいとする取組・イベントとして、キャンプ、花火、カヤック・ボートが多く挙げられている。
- 「冬」に訪れたいとする取組・イベントとして、温泉、郷土料理、ライトアップが多く挙げられている。

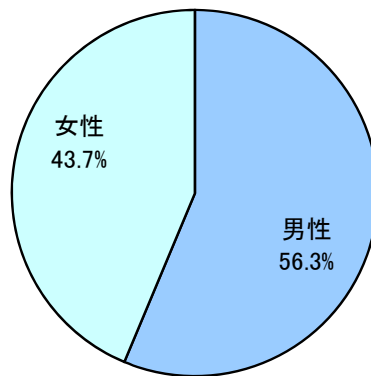
(6) 来訪の意欲について

- 「また訪れたい」が9割を占めている。

【集計結果】

(1) 性別

回答者の“性別”に関しては、「男性」が 56.3%に対し、「女性」が 43.7%であり、概ね半数ずつ回答している。

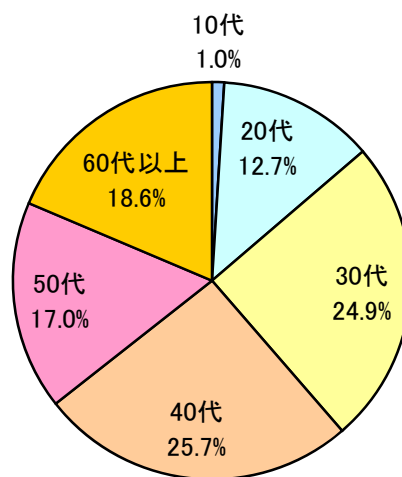


単一選択

(性別)

(2) 年齢

回答者の“年齢”に関しては、「20代」から「60代以上」の各世代でまんべんなく回答している。

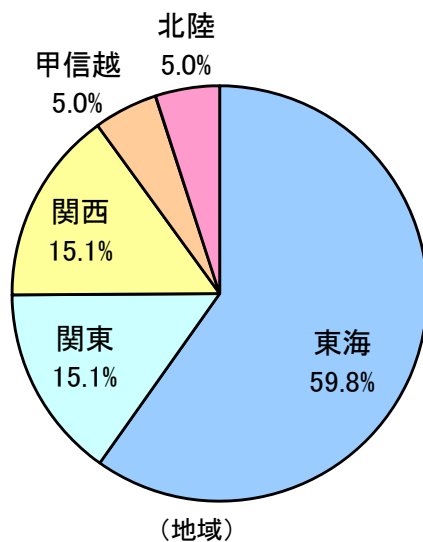


単一選択

(年齢)

(3) 地域

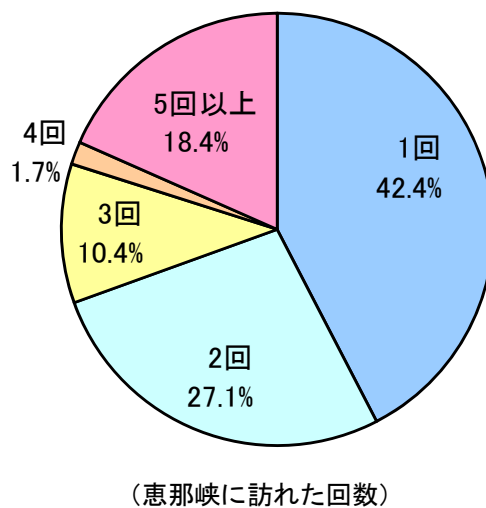
回答者の“地域”に関しては、「東海」が 59.8%と全体の約 6 割を占めている。「関東」と「関西」がそれぞれ約 15%、「甲信越」と「北陸」がそれぞれ 5.0%となっている。



単一選択

(4) 恵那峡に訪れた回数

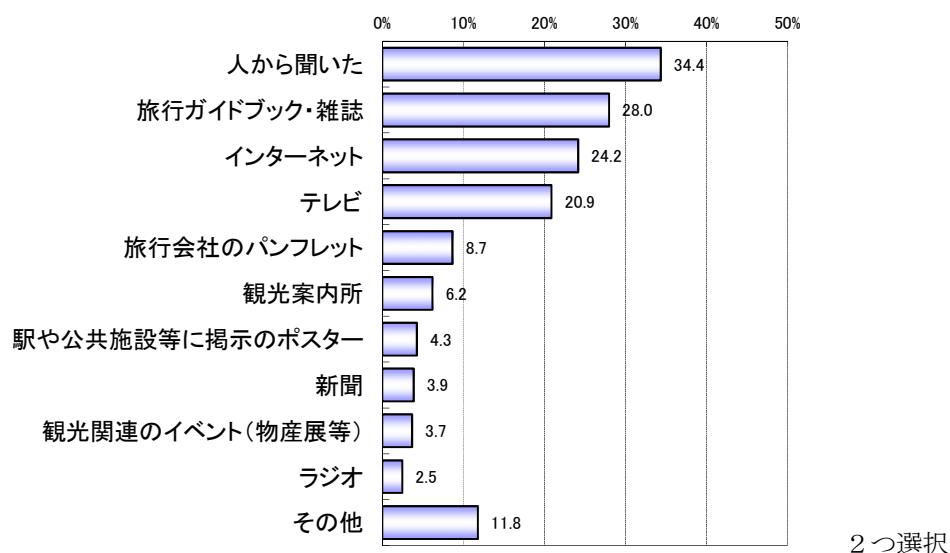
回答者の“恵那峡に訪れた回数”に関しては、「1回」が 42.4%と最も多いが、2回以上恵那峡に訪れた事がある人（リピーター）は、全体の約 6 割を占めている。



単一選択

(5) 恵那峡を知った方法

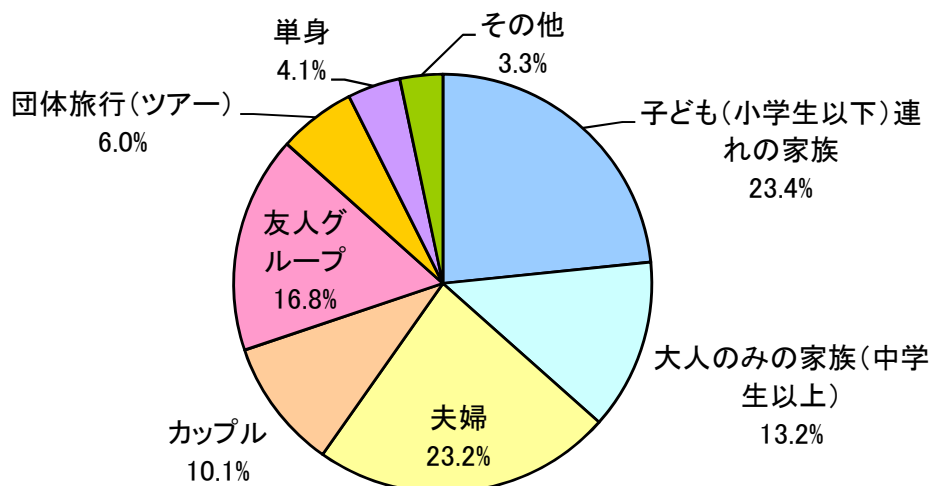
回答者の“恵那峡を知った方法”に関しては、「人から聞いた」が 34.4%と最も多いのに対し、「インターネット」、「テレビ」の割合もそれぞれ 24.2%、20.9%と多くなっている。また、その他の回答として、「地元・近所である」「ドライブの途中で立ち寄った」「以前から知っている」等があった。



(恵那峡を知った方法)

(6) 恵那峡へ誰と来たか

回答者の“恵那峡へ誰と来たか”に関しては、「子ども連れの家族」と「夫婦」がそれぞれ 23.4%と 23.2%と多くなっている。一方、「団体旅行（ツアー）」は 6.0%と少なくなっている。

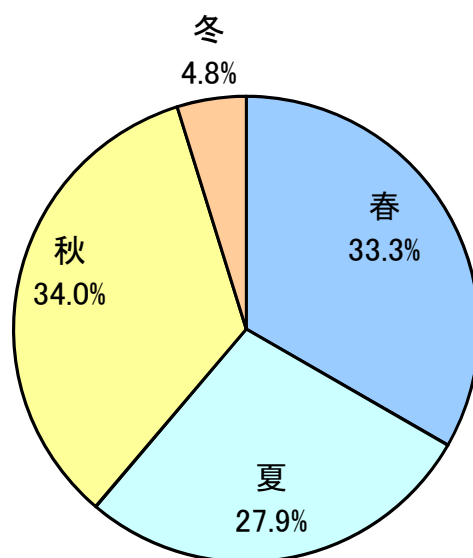


単一選択

(恵那峡へ誰と来たか)

(7) 恵那峡へ訪れた季節

回答者の“訪れた季節”に関しては、「冬」が 4.8%と少ないが、「春」「夏」「秋」においては、それぞれ全体の約 3 割を占めており、冬以外の季節は同程度となっている。

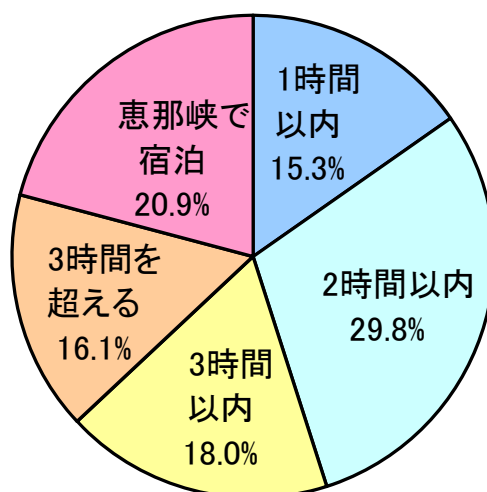


単一選択

(恵那峡へ訪れた季節)

(8) 恵那峡の滞在時間

回答者の“滞在時間”に関しては、「1 時間～2 時間以内」が 29.8%と最も多くなっている。また、「1 時間以内」と「1 時間～2 時間以内」を合わせた 2 時間以内は、45.1%と全体の約半数を占めている。一方で、「恵那峡で宿泊」は、20.9%と全体の約 2 割を占めている。

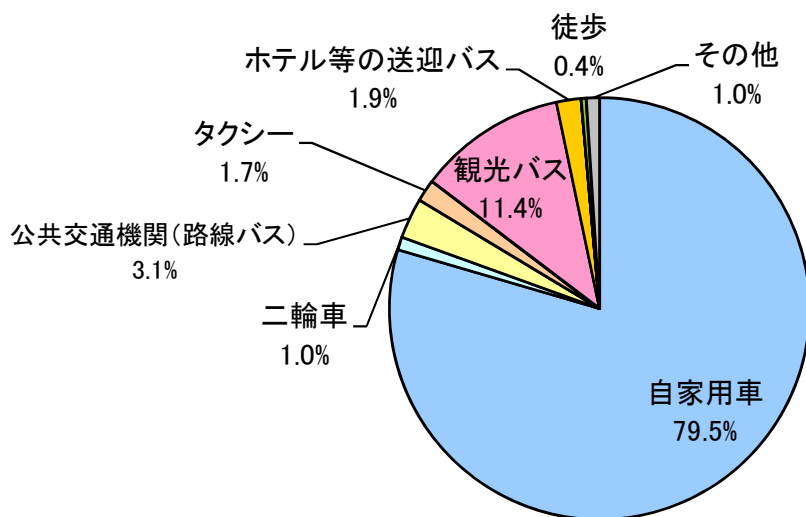


単一選択

(恵那峡の滞在時間)

(9) 恵那峡への交通手段

回答者の“交通手段”に関しては、「自家用車」が 79.5%と全体の約 8 割を占めている。続いて、「観光バス」が 11.4%となっている。

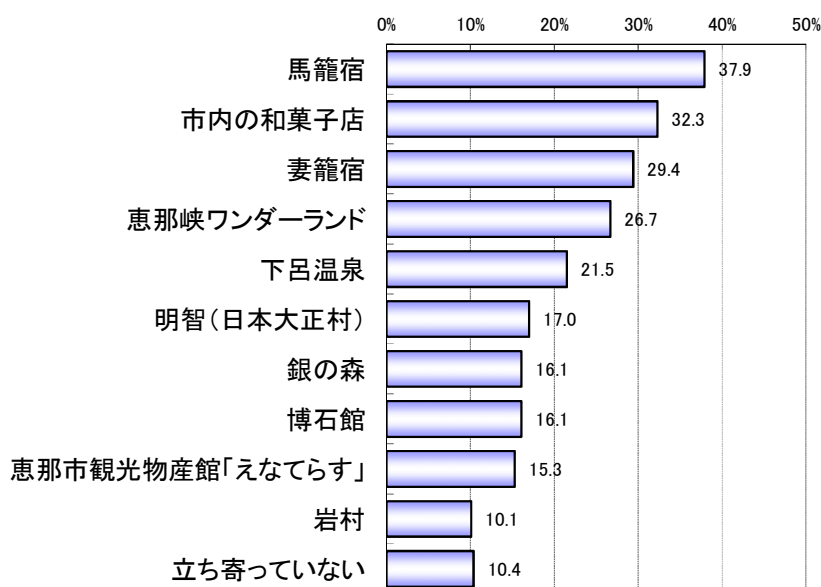


単一選択

(恵那峡への交通手段)

(10) 恵那峡以外に立ち寄った場所

回答者の“恵那峡以外に立ち寄った場所”に関しては、「馬籠宿」が 37.9%と最も多く。続いて、「市内の和菓子店」と「妻籠宿」もそれぞれ約 30%と多くなっている。また、「恵那峡ワンダーランド」「下呂温泉」がそれぞれ 26.7%、21.5%となっている。

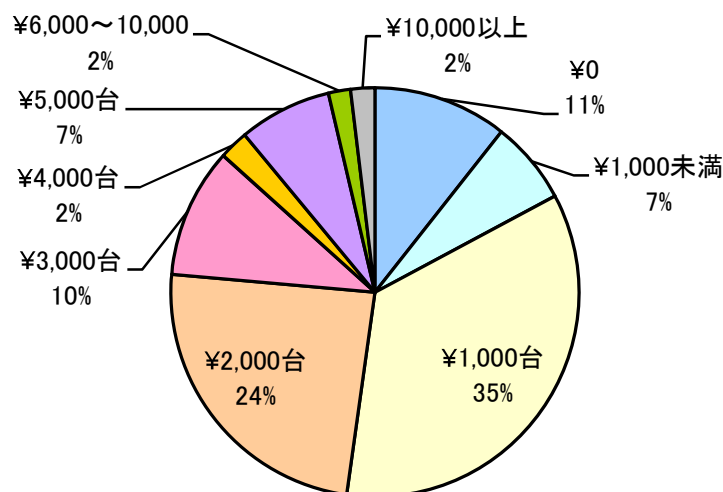


複数選択可

(恵那峡以外に立ち寄った場所)

(11) 恵那峡で使った金額（飲食代）

回答者の“飲食代”に関しては、「¥1,000 台」と「¥2,000 台」を合わせて全体の半数以上を占めている。一方、「¥0」も 11%と多くなっている。なお、平均飲食代は約¥2,200 である。

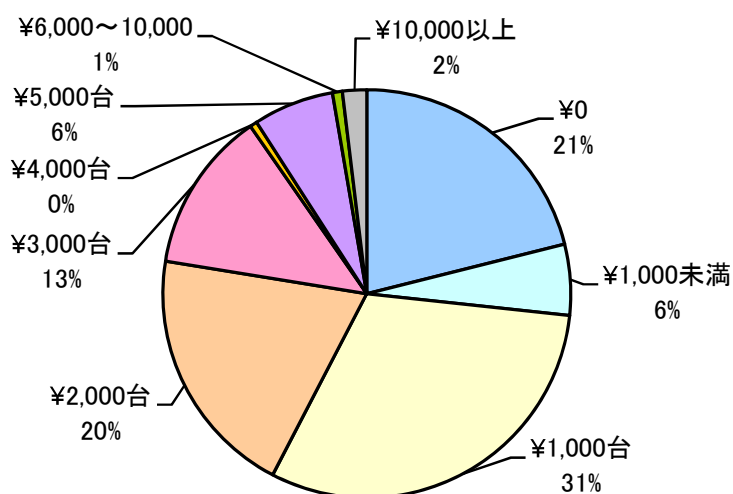


単一選択

（恵那峡で使った金額（飲食代））

(12) 恵那峡で使った金額（土産代）

回答者の“土産代”に関しては、飲食代と同様「¥1,000 台」と「¥2,000 台」で全体の約半数を占めている。一方、「¥0」も 21%と次に多い。なお、平均土産代は約¥1,800 である。

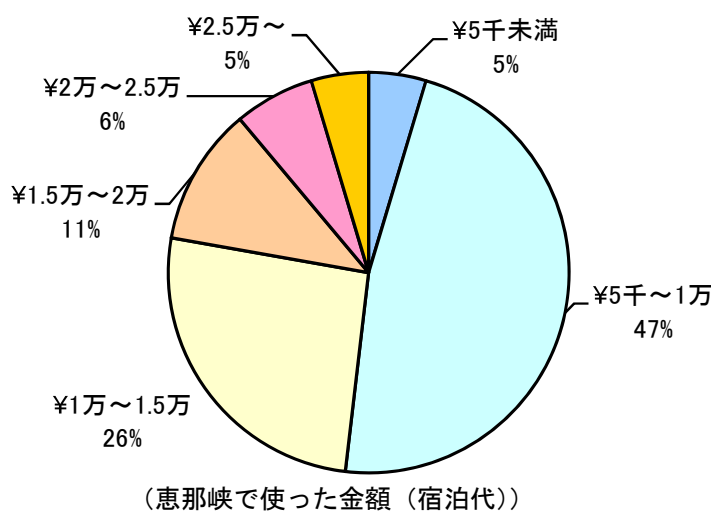


単一選択

（恵那峡で使った金額（土産代））

(13) 恵那峡で使った金額（宿泊代）

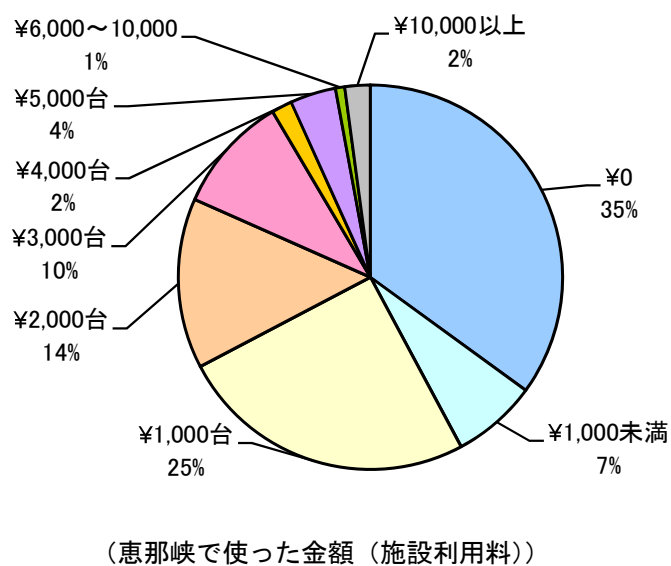
回答者の“宿泊代”に関しては、「¥5千～1万」が47%と約半数を占めている。続いて「¥1万～1.5万」「¥1.5万～2万」がそれぞれ26%と11%となっている。なお、平均宿泊代は約¥12,000である。



単一選択

(14) 恵那峡で使った金額（施設利用料）

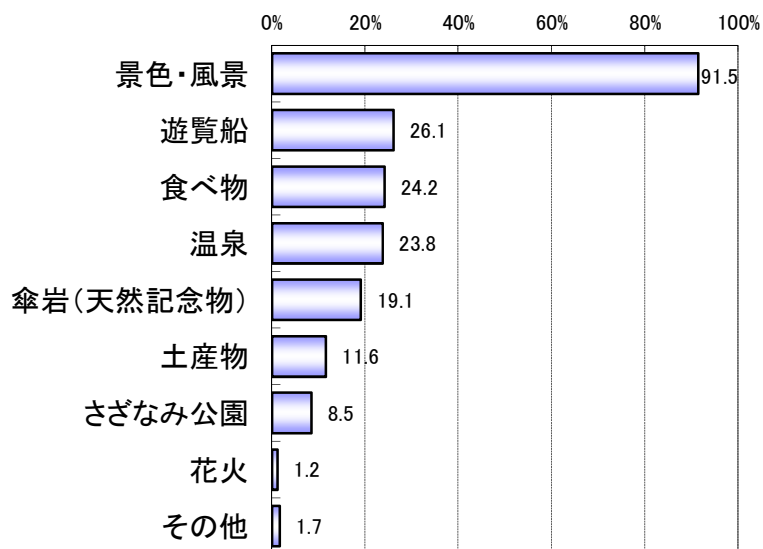
回答者の“施設利用料”に関しては、「¥0」が35%と最も多くなっている。一方、お金を使った来訪者においては、「¥1,000 台」が25%と最も多く、平均施設利用料は約¥1,500である。



単一選択

(15) 恵那峡の魅力

回答者の“恵那峡の魅力”に関しては、「景色・風景」が 91.5%と最も多くなっている。続いて「遊覧船」「食べ物」「温泉」がそれぞれ約 25%となっている。

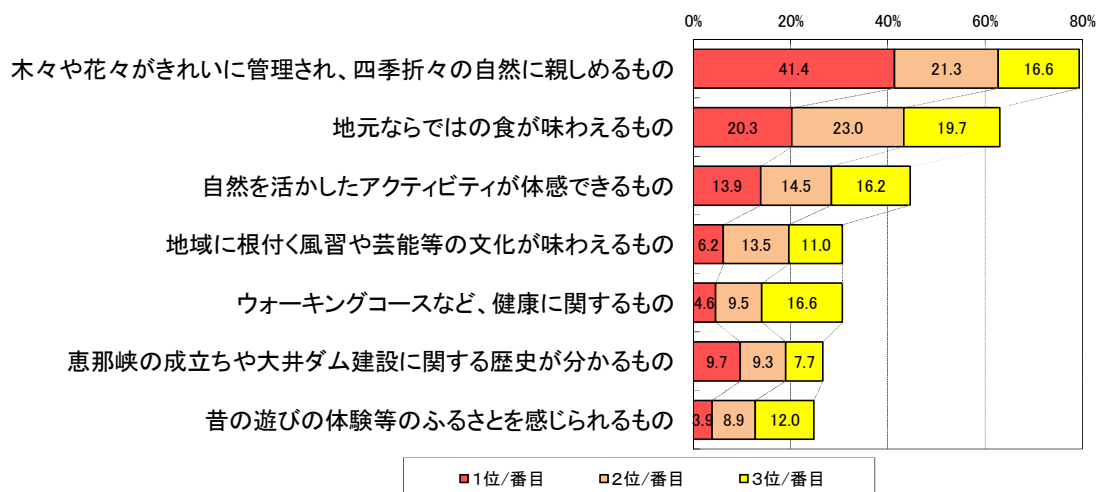


3つ選択可

(恵那峡の魅力)

(16) 恵那峡の魅力向上の施設・取組イメージ

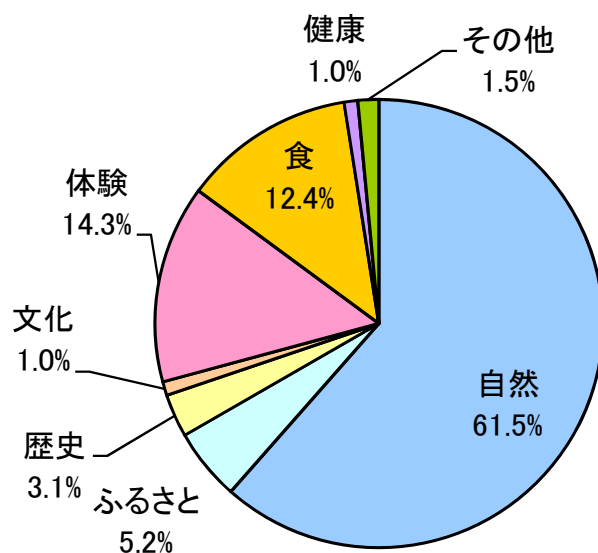
回答者の“恵那峡の魅力向上の施設・取組イメージ”に関しては、木々や花々といった「自然」に関係する回答が最も多くなっている。続いて、食べ物やアクティビティといった「地元」に関する回答や「体験」ができるものの回答が多くなっている。



(恵那峡の魅力向上の施設・取組イメージ)

(17) 「夏」に訪れたくなる取組・イベント（キーワード）

回答者の“「夏」に訪れたくなる取組・イベントのキーワード”に関しては、「自然」が61.5%と最も多く、続いて「体験」「食」がそれぞれ14.3%、12.4%となっている。

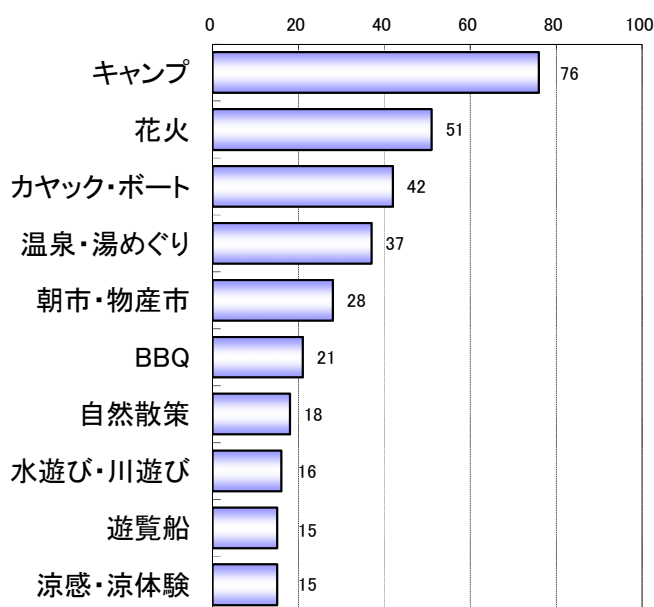


単一選択

（「夏」に訪れたくなる取組・イベント（キーワード））

(18) 「夏」に訪れたくなる取組・イベント（自由記述）

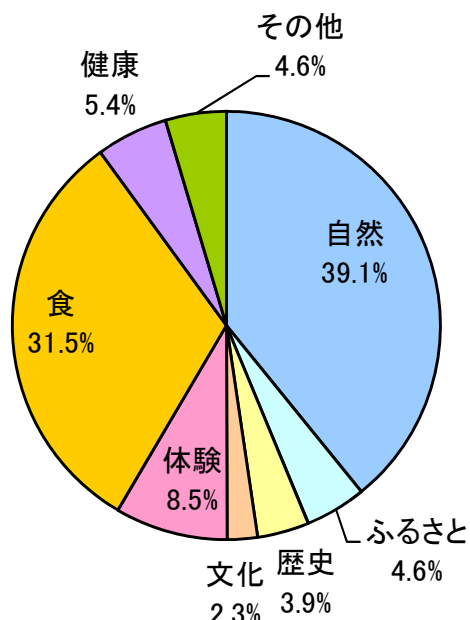
回答者の“「夏」に訪れたくなる取組・イベントの自由記述”に関しては、「キャンプ」が76人と最も多く、続いて「花火」「カヤック・ボート」がそれぞれ51人、42人となっている。また、その他の回答として、「グルメフェア」「登山・クライミング」「音楽祭・コンサート」等があった。



（「夏」に訪れたくなる取組・イベント自由記述）

(19) 「冬」に訪れたい組・イベント（キーワード）

回答者の“「冬」に訪れたい組・イベントのキーワード”に関しては、「夏」と同じく、「自然」が 39.1%と最も多くなっており、続いて「食」「体験」がそれぞれ 31.5%、8.5%となっている。

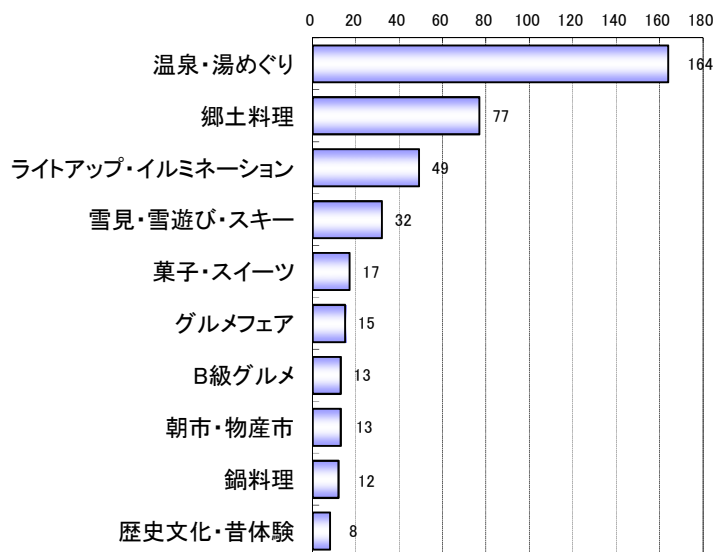


単一選択

（「冬」に訪れたい組・イベント（キーワード））

(20) 「冬」に訪れたい組・イベント（自由記述）

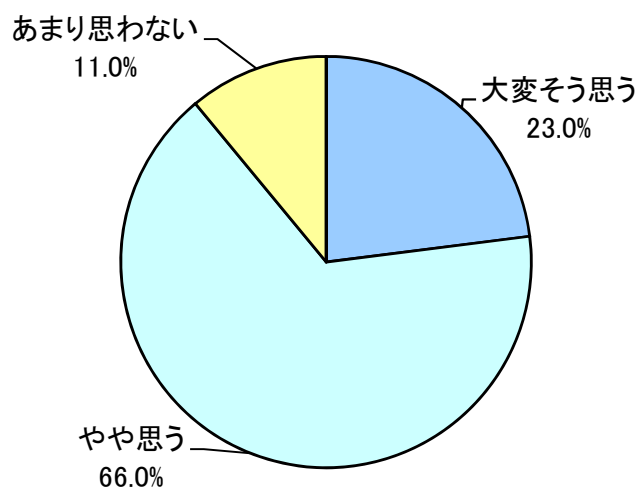
回答者の“「冬」に訪れたい組・イベントの自由記述”に関しては、「温泉・湯めぐり」が 164 人と最も多くなっている。続いて、「郷土料理」「ライトアップ・イルミネーション」がそれぞれ 77 人、49 人となっている。また、その他の回答として、「ウォーキング・トレッキング」「バードウォッチング」「自然観察」等があった。



（「冬」に訪れたい組・イベント自由記述）

(21) 恵那峡をまた訪れたいか

回答者の“恵那峡をまた訪れたいか”に関しては、「やや思う」が 66%、「大変そう思う」が 23%であり、合わせて全体の約 9 割の来訪者がまた訪れたいと回答している。



(恵那峡をまた訪れたいか)

単一選択

資料5 平成24年度作成構想イメージ図

平成24年度に恵那峡再整備構想策定検討委員会が作成した構想イメージ図を以下に示す。なお、これらは平成25年度の検討により、整備内容が変更になったことに伴い、図中の表現との相違が生じたため、参考として掲載する。

1) 構想イメージ図

イメージ図位置図



注：図中の番号にて眺望方向を示す。















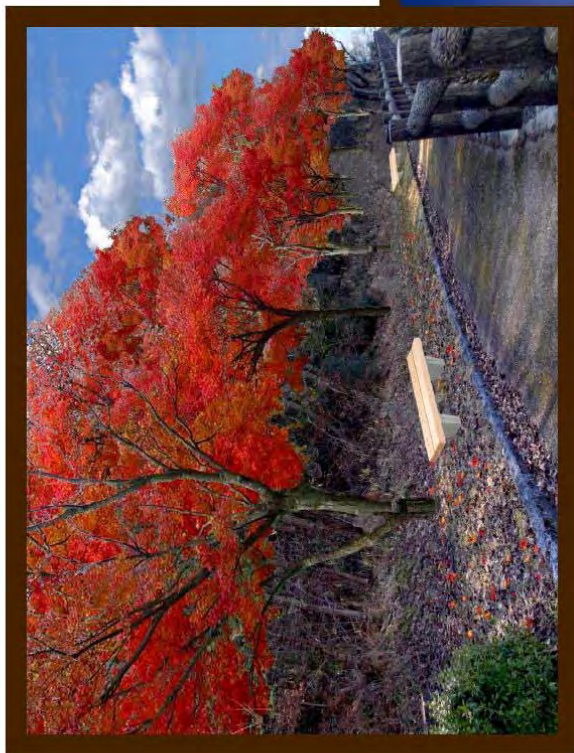


さざなみ半島の夜景

14



produced by daiya



湖畔円周

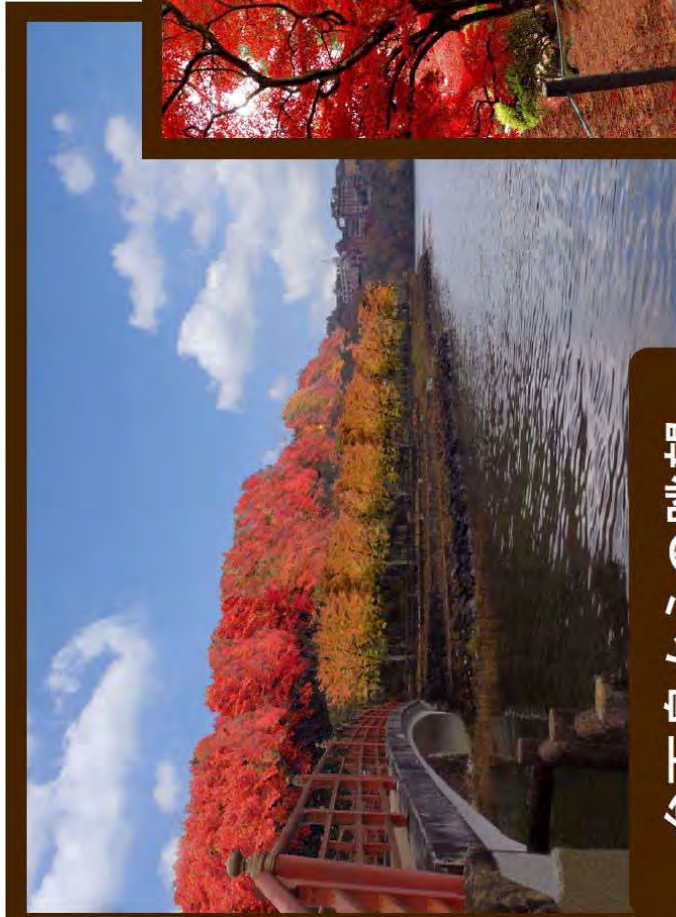


ライトアップ

遠望公園なぞ



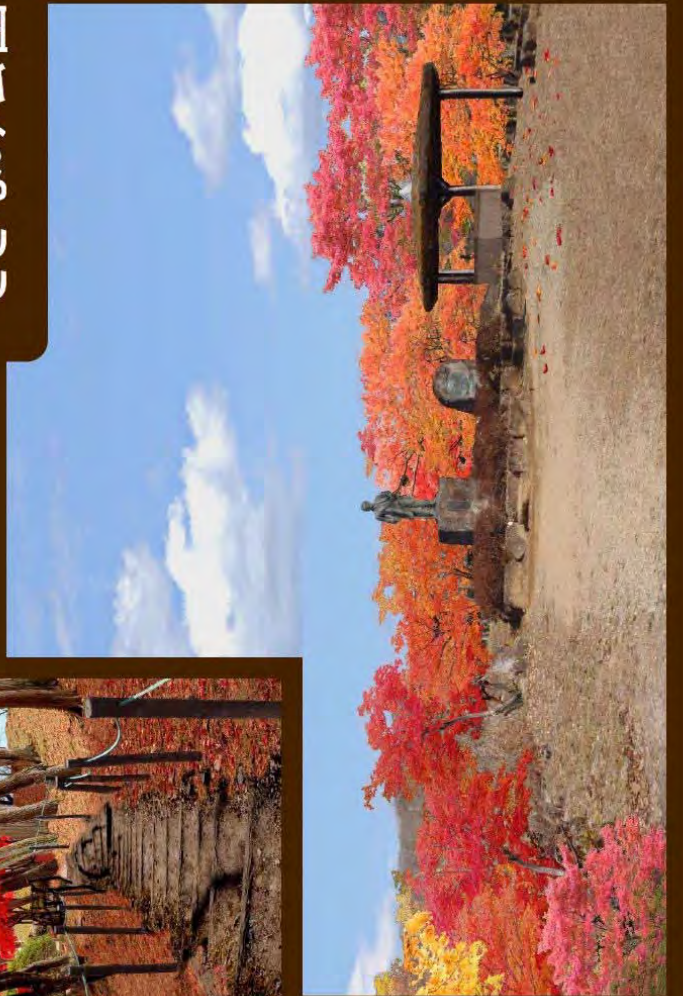
恵那峡を魅せるもみじ



弁天島からの眺望



公園内散策路



さざなみ公園

もみじで魅せる恵那峡

糸 岩



もみじで魅せる恵那峡



千畳敷岩



千畳敷岩 への小道

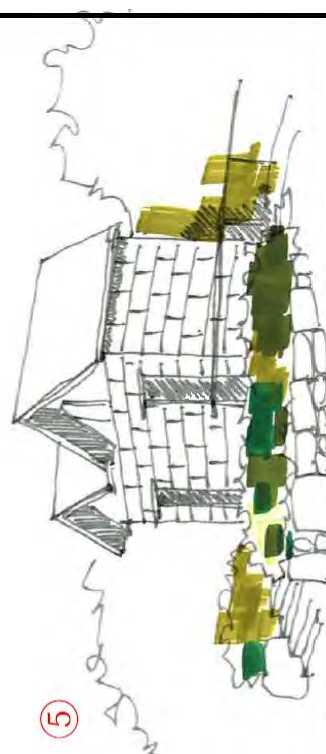
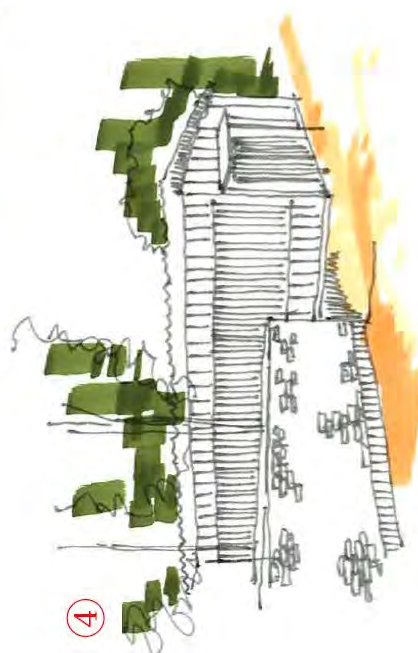
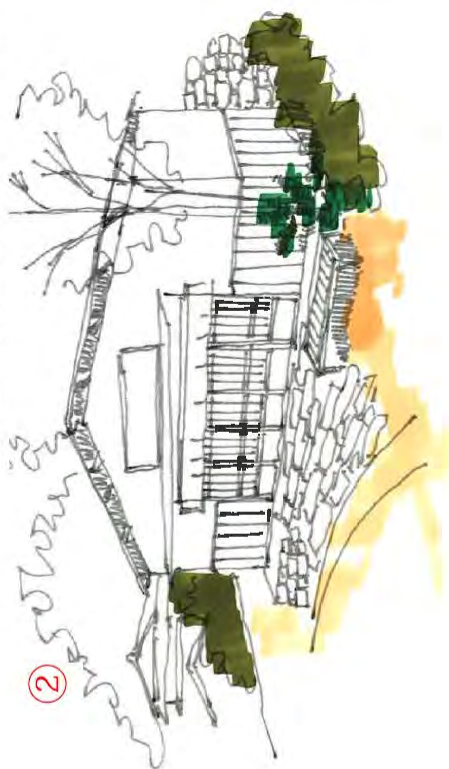
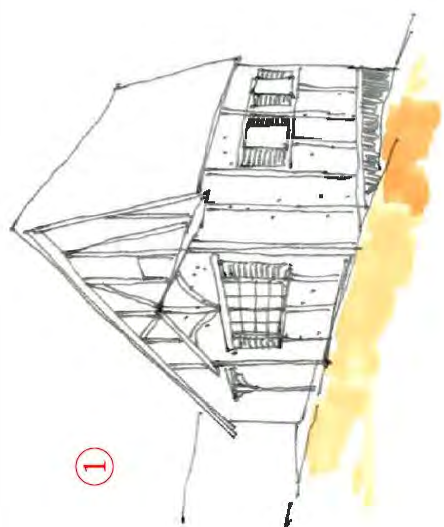
もみじで魅せる恵那峡

2) 建物修景イメージ図

店舗イメージ図位置図

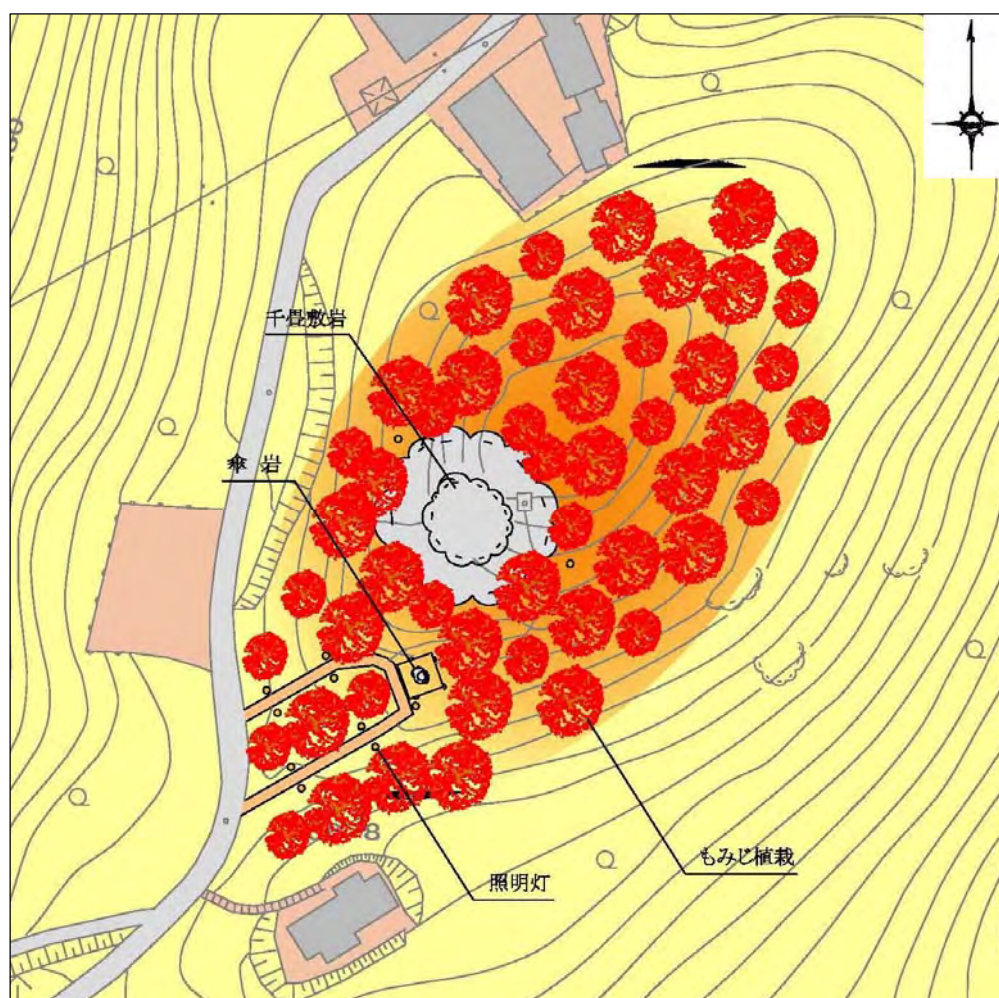


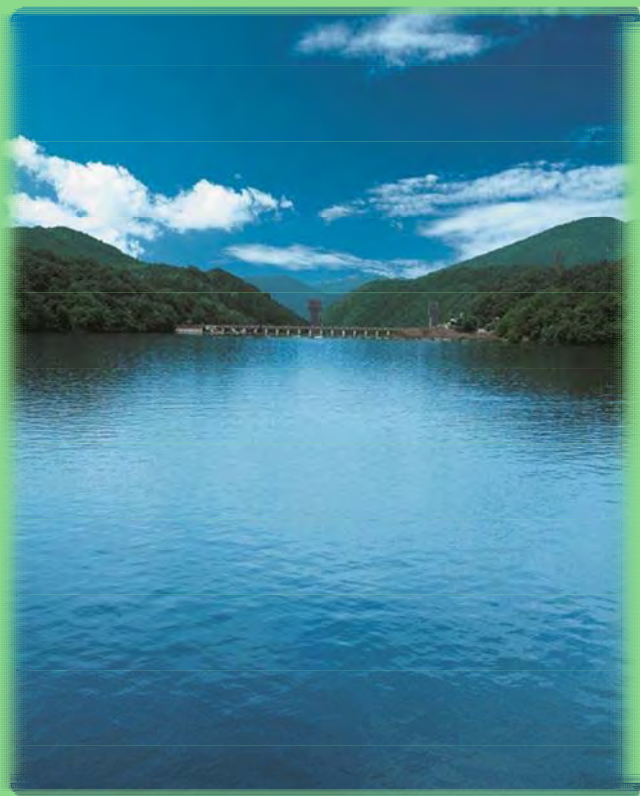
藤棚広場周辺既存建物イメージ図





3) 傘岩周辺整備イメージ図





＜発 行＞

恵那市役所経済部商工観光課観光交流室

〒509-7292

岐阜県恵那市長島町正家1丁目1番地1

Tel. 0573-26-2111（代表）